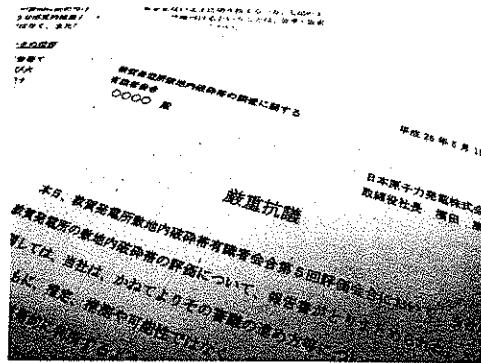


敦賀2号機 地質データ書き換え

原電 再稼働へ「禁止手」

◎2012年12月、敦賀原発の試掘溝を調べる原子力規制委員の専門家チーム＝敦賀市で
◎敦賀原発2号機をめくり、原電が調査に当たった専門家に送った「嚴重抗議」のひな型



「活断層あり」判断に抗議文も

今回に限らず、原電はこれまで敦賀原発2号機を稼働させるために、いかに構わない姿勢を見せてきた。東京電力福島第一原発事故後、規制委員との間で展開された「パト

ル」がそれを示している。二〇一二年十一月、島崎邦彦委員長代理(当時)ら五人の専門家チームは、敦賀2号機の直下を走る断層「D1」の破砕帯が活断層の可能性が高いと全編一致で判断し、一三年五月には活断層と断定する報告書を送った。

識者「原発動かさず八方ふさがり」

「それがそれまで表示している。二〇一二年十一月、島崎邦彦委員長代理(当時)ら五人の専門家チームは、敦賀2号機の直下を走る断層「D1」の破砕帯が活断層の可能性が高いと全編一致で判断し、一三年五月には活断層と断定する報告書を送った。

81年

冷却水漏れ隠し

規制委員の指摘に対して原電は、ボーリング調査した地層を顕微鏡などで詳しく調べ、「固結」の結果が出たため、肉眼の観察結果と合わない

98年

07年

試験で不正

一九八一年には、敦賀1号機の冷却水漏れを隠していたことが発覚。九八年には、原電が全額出資する子会社「原電工事」が使用済み核燃料の運搬容器(キャスク)関連の試験データを改ざんしていたことが分かった。

資料に誤り1100件発覚



た」と批判が噴出。原子力規制庁の大浅田薫・安全規制管理官は「自身の議論に入れない」と述べ、審査会合は異例の即時打ち切り。規制委員は、他にも書き換えがないかを調べて報告するよう原電に求めた。

特報

原子力規制委員会が「原発直下に活断層」の可能性を指摘し、再稼働が絶望的な日本原子力発電(原電) 敦賀原発2号機(敦賀市)。ところが、おきまぬ原電は過去に規制委員に出した地質データを「書き換え」し、新たに審査用資料として提出した。規制委員は「絶対やってはいけない」と激怒するが、原電維持のためならいかなる犠牲も厭わない原電の根深い「体質」が、またあらわになったと言えそうだ。

(中山岳 編原案)